



Title	第52回日本木材学会大会に参加して
Author(s)	佐々木, 義久
Description	研修参加レポート
Citation	北海道大学大学院農学研究科技術部研究・技術報告, 10, 15-15
Issue Date	2003-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35447
Type	departmental bulletin paper
File Information	10_p15.pdf



第52回日本木材学会大会に参加して

環境資源学専攻 木材科学講座 佐々木 義久

2002年4月2日から4日までの3日間、岐阜大学で行われた、第52回日本木材学会大会に参加する機会を得たので、ここに報告する。

この大会は、木材に関する様々な研究を発表する場であり、部門別に、組織構造・分類、組織培養・材形成、材質、物性、強度、乾燥、製材・機械加工、居住性・感性、木質構造、木質材料、接着・接着剤、化学加工、パルプ・紙、セルロース・ヘミセルロース、リグニン、抽出成分・微量成分、保存、きのこ、熱分解・エネルギー、環境・資源、林産教育・技術移転、その他の22部門である。発表総数675件、1100人以上の参加があった。私はこの22部門のうち、木質構造という部門の発表を主に聞いた。

木質構造とは、製材や合板などを壁や柱の材料として用いた建築構造のことを言う。この部門の研究では、上で述べた、製材、合板、集成材、壁、柱、床、梁、釘やボルト等の接合金物、接合の仕方や種類等をキーワードに、力学的な視点から追求することをテーマに、研究がなされている。今大会でもあらゆる観点からの実験・研究の発表があり、大変興味深かった。

特に関心を持てたのが、火災を受けた建造物に使われた木材が、出火位置からの距離によって、どれだけ強度的なダメージを受けたかという研究や、実大の住宅を使った大規模な耐震実験の研究等は実験風景の写真を交えた発表で、容易に理解することが出来た。それとこのようなスケールの大きな実験を出来る設備があることを羨ましく思った。

このように全国各地の研究者たちが一堂に会して発表し、意見を交換することはとても大事なことだと感じた。

近年、環境やエネルギーの問題が叫ばれているが、木材も再生可能な有効資源としてクリーンに活用されている。今後さらに木材に対する要求が増してくるであろう。私も技官として様々な研究の手助けをしていきたいと思います。

最後に、今回の日本木材学会大会に参加するに当たり、深い理解をくださった技術部長をはじめ技術部運営委員会の方々に厚くお礼申し上げます。またご多忙の中、諸手続きをして下さった事務職員の皆様に感謝いたします。